



RI 第 2 6 1 0 地区

## 井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09年度 No.8 8月27日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、[inashorc@athena.ocn.ne.jp](mailto:inashorc@athena.ocn.ne.jp)

2008-09年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

### ① 例会記録「ガバナー補佐事前訪問」

### ② 特集「ロータリーよ どこへ行く」シリーズ①

#### ①第1437回夜間例会

平成20年8月20日(水) 井波文化センター

1. 点鐘 小西会長
2. ソング「奉仕の理想」
3. ゲスト紹介：池田茂がバナー補佐(新湊中央 RC)



4. ビジター紹介：三吉外男君(南砺 RC)
5. 会長の時間…「本日のガバナー補佐の事前訪問は、以前から個人的にも懇意にしています新湊中央 RC の池田さんです。太子伝には、ご夫婦でお越しいただきました。後ほど卓話と C.A.をよろしく願います。また、本日は会員の皆様には南砺水害の義援金をお願いいたします。それから、個人的なことですが、メタボがいけないということや、持病の腰痛予防のために、ラフォーレで水中ウォーキングを始めました。これが結構いいです。」
6. 幹事報告…「まずは、先日の早朝例会には、拙寺によ

うこそ。①本日は例会後、池田ガバナー補佐を囲んで C.A. があります。②8月27日はガバナー公式訪問です。③南砺市水害の義援金は、本日めいめいに封筒をお渡しいたします。帰りまでに、よろしく願います。めやすは一人1000円とします。④地区大会の出欠をよろしく。」

7. 委員会報告…出席委員会(代理):25名中17名出席(出席免除者8名中5名出席)・・・出席率 77.27%

8. ニコニコBOX(助田 SAA:本日9名 16,000円)

池田ガバナー補佐：ご挨拶。

小西会長：G 補佐ようこそ。太子伝お礼。会報お礼。

横山豊介会員：砺波市美術館に作品を3点寄贈、3度目の紺綬褒章受章。G 補佐ようこそ。

坂井会員：池田 G 補佐ようこそ。

三谷会員：横浜から釜山に1週間の船旅しました。

高瀬幹事：池田 G 補佐ようこそ。

山本会員：池田 G 補佐ようこそ。娘の剣道の全中富山大会、いよいよ明日が試合です。

河合会員：地区の運動会で3連覇しました。

助田 SAA：池田 G ようこそ。

(8月計 39,000円：年度累計 90,000円)

10. その他：横山幹会員より招待状：「横山幹造形展」  
9月20日～11月16日砺波市美術館

## 卓話「心にゆとりを 人々に愛を」 池田茂ガバナー補佐(新湊中央 RC)

池田ガバナー補佐:訪問前に井波庄川ロータリークラブのHPを拝見しました。会報の卓話もなかなかよかったです。こちらへは、4番目の事前訪問です。こじんまりしていてアットホームないいクラブです。地域との交流もされていて、小さいクラブながら素晴らしいです。

個人的な話ですが、私は高岡市の牧野の出で、小中と40名1クラスでした。中学校は芳野中牧野分校でした。周りじゅう新湊でした。富山商船高専に入り、航海科と機関科があり、しばらく舟にりましたが、岡に上がり電気屋になりました。井波には奥田正彦君が同級生でいますが、彼はまだ船乗りしています。

さて、本題ですが、高柳ガバナーからの宿題もあり、テーマは「心にゆとりを、人々に愛を」とさせて頂きます。

私自身そうですが、例会場を出たとたんロータリーを忘れたり、車に乗ったとたんロータリアンでなくなったりします。「ロータリーとはなんぞや」ということをよくいわれますが、①ロータリーはどうしてできたかという、必要あって自然発生的に生まれたもので、それくらい世の中には大事なもののなのです。②また、ロータリーがわからない・ロータリアンであることを忘れてしまうというのは、理想が高い・無理をしているということが原因であるということがよく耳にします。そこで、私なりに考えてみました。

ロータリーは、義援金を集めるが寄付団体でない・草むしりや空き缶拾いをするが単なるボランティア団体でない・お経や和讃のようにロータリーの綱領や四つのテストを唱えるが宗教団体ではない、つまりそんな小さなものではなく、地球規模の大きなボランティア・ネットワークです。自分だけでなく、多くの人に呼び掛けて率先して「奉仕の理想」を広めようとしたり、どうしたらゴミを出さないようにできるかを考えたりしています。

ロータリーには、「ツクツクホーシ」といわれる4大奉仕がありますが、例えば、職業奉仕については、職業貢献と言い換えたらいいのでは？ロータリーの中で、異業種交流が大事といわれたら、その存在がすでに職業奉仕です。また、どんな活動をするかといわれたら、「内に向かい向上心、外に向かい影響力」という基本的な考えで、たとえ

ば『14歳の挑戦』などの世話をすることがその大きな活動になります。

社会奉仕についても、小西会長の「八乙女一座」の活動は、社会に広めようという意思があり、ロータリアンだけでなく一般の人と一緒に奉仕をしている素晴らしい例です。

ロータリーには「超我の奉仕」というのがありますが、私は、これは宮沢賢治の詩「アメニモマケズ カゼニモマケズ」そのものと考えます(詩の朗読される)。

高岡のあるお坊さんの聞いた話ですが、「幸せとは、分母が欲望で、分子が現在の状態である」ということです。幸せになりたいと、分子は我々は本能的に行っていることで、例えば金銭で大きくしようと努力して大きくできるが、分母は我慢・あきらめ・悟りとかで小さくすることが相対的に幸せ度を高められるが、大変難しいことです。また、分子は人から奪って大きくするが、分母は人に与えて小さくするものといえます。最も奉仕するもの、最も報われるといわれる所以がここにあります。欲望を大きくせず、物に執着せず、ありのまま受けとめることがいいのではないのでしょうか。ロータリアンは利己的な幸福を求めず、社会的に他と幸福を分かちあい、心を開いて仲間と付き合いましょう。

さて、ガバナー補佐の仕事は、「ガバナーが光り輝く存在にする」ことです。①会員の増強、②財団や米山の寄付のお願いや、地区内のいろんな情報を把握することです。高柳ガバナーを一生懸命に支えるつもりですのでよろしくお願いします。 【要約：山本】



C.Aの様子

## ② 特集「ロータリーよどこへ行く」

ロータリー情報委員長 木村英典

### シリーズI 『唄を忘れたカナリヤ』

昭和49(1974)年4月、砺波ロータリークラブに入会して34年が過ぎた。よくもまあ続いたものだと、我ながら感心している。

ことし72歳だから、わが人生のほぼ半分、ロータリーに関わってきたことになる。

この30数年をふりかえって、ロータリーが随分変わったことを痛感する。その中で最も大きな変化は、ロータリーを構成する基本的主体が、「ロータリアン」個人から「クラブ」という組織に移行されてきたことである。

奉仕団体の中で、ロータリークラブの看板である筈の「職業奉仕」は、時間と共に色褪せて、今では4大奉仕とは名ばかり、それでもまだ自分の出番があるのかと、限においやられて小さくなっている姿が哀れで、思わず抱きしめてやりたい気持ちになる。

この反面、近年になって、がぜんとスポットを浴びてきたのが「社会奉仕」である。

30数年前には、クラブを挙げて行う現在のような社会奉仕活動が全然なかったわけではない。砺波ロータリークラブでは、ゴミゼロ運動などの環境美化活動や、砺波学園などの福祉施設にプレゼントをしたり、近隣市町村の母子家庭の入学児童にランドセルを贈るなどの奉仕活動はあった。しかし、今のように、新聞の記事になるような奉仕活動をクラブに奨励されて、その結果、記事の切抜きをガバナーマンスリーレターに掲載されるなど、当時では考えも及ばないことであった。当時では、ロータリーの奉仕はあくまで個人による職業奉仕が基本

であるが、クラブ単位でやる方が効果があるものはクラブで、地区の規模でやるべきものは地区でやれば良い、というのが結論であったように思う。当時社会奉仕活動をするロータリアンの心の奥底には、なにか不本意な後ろめたい気持ちがあったのではないかと今でもおもっている。

ポール・ハリスは自著「ロータリーの理想と友愛」(This Rotarian Age)の中でこう述べている。

『この世界は常に変遷する。われわれは変遷する世界と共に変遷する用意がなければならぬ。ロータリーの物語は、幾度も幾度も書き換えられなければならないだろう』

ポール・ハリスの予言は的中したが、果たしてここまで変わると想像していただろうか。昨今のロータリーの変貌を見てみるとロータリーとは違う、なにか全く別のものになっていくような気がしてならない。

唄を忘れたカナリヤは、背戸のお山に捨てるところか、いつまでもそんな唄が忘れない老タリアンたちは、絶滅危惧種として、静かにロータリーの世界から消えていくのがいちばんの「クラブ奉仕」といえるのかも知れない。

#### 【編集後記】

ガバナー補佐訪問の卓話記事でスペースを使い果たしました。いい話ですのでゆっくり読んでください。

本号より、木村英典ロータリー情報委員長に、寄稿していただき、会員の皆様に、ロータリーの本質を少しでも理解していただきたいと思います。私とはじめとする入会10年未満の会員は、「ロータリーの生き字引」でもあります木村会員から少しでも、それこそ『爪の垢』でも、ロータリーとはなんぞや、について理解を深められたら幸せです。この会報が少しでもお役に立てれば光栄です。木村会員には、月1回程度お願いしてありますので、お楽しみに・・・ (山本武夫)